

守り、創り、育てよう
ふるさと島根の景観

第10回 しまね景観賞



島 根 県

はじめに



島根県知事 **澄田信義**

私たちのふるさと島根は、美しい自然景観、人々の営みから創り出された農山漁村景観、先人の知恵が活かされた歴史的景観など、それぞれの地域で特色ある景観が形造られています。

このような優れた景観を将来にわたって保全していくとともに、新たな魅力ある景観を創り、育てることを目的として、平成3年12月に「ふるさと島根の景観づくり条例」を制定し、これまで様々な取組みを行ってきました。

このたび第10回を迎えることとなった「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献している建造物等を表彰することにより、快適で文化の薫り高いふるさと島根の景観を形成していくことを目的とするものです。平成5年度に行った第1回から今年度まで、毎年100件前後の応募があり、多くの県民の皆様から景観に対する高い関心を寄せていただいています。

また、受賞件数は、この10年間に100件を超え、私たちの周りに、ゆとりや豊かさを実感できる魅力ある景観が数多く形成されてきました。

今年度は、大賞の「原鹿の旧豪農屋敷」をはじめとして、10件の建物や活動などを表彰することといたしました。

受賞されました皆様に、深く敬意を表しますとともに、選定に当たりご尽力いただきました「しまね景観賞審査委員」の皆様や応募をいただいた方々に対しまして、厚くお礼申し上げます。

今後とも、本県の魅力ある景観の保全・創造への一助となる取組みを、より一層進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成15年2月

選考総評



しまね景観賞審査委員会
委員長 **藤岡大拙**

今回の「しまね景観賞」の応募総数は、第10回という節目の年にふさわしく、近年で最も多い119件であった。特に、近年応募が全くなかった隠岐島前地区からの応募が、今回は5件あり、そのうち2件が受賞することとなった。

選考に当たっては、書類審査による第1次審査では、全応募物件の中から36物件を選定し、第2次審査では、現地審査と審査会とを行い、次の10件の建築物や活動等を選定した。

大賞には、斐川町が「田園空間博物館構想」の中核施設として整備した『原鹿の旧豪農屋敷』が選ばれた。可能な限り既存のものを活用して明治中期の建物を修復するとともに、築地松を含む屋敷林、出雲流庭園及び堀を復元し、出雲の原風景を蘇らせた点が高く評価された。

優秀賞は3件である。「民間建築物部門」からは『なかむら館』、「個人住宅部門」からは『後藤家(旧宮田家)』が選ばれた。『なかむら館』は大田市で銀行の建物として以前使われていたものを、『後藤家(旧宮田家)』は広瀬町にあった民家を、それぞれ移築し、周囲の景観に溶け込ませながら活かした点が評価された。「工作物・その他部門」からは石積みの美しさが評価された『熊ヶ谷棚田』が選ばれた。

奨励賞は6件である。「まち・みどり部門」からは、『赤ハゲ山の野大根』と『浜田美都線「ハートフルロードしまね」』が選ばれた。いずれも地域住民により昭和50、60年代から続けられている地道な活動が評価された。「土木施設部門」からは、自然景観に配慮した『軍平谷東谷川火山砂防工事』と『匹見川護岸工事』が、「公共建築物部門」からは、隠岐の木材をふんだんに使った『承久海道キンニャモニャセンター』が、「民間建築物部門」からは、新築でありながら昔からそこにあったかのように街並みに溶け込んでいる『出雲湯村温泉元湯公衆浴場』が、それぞれ選ばれた。

今後、さらに多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに積極的に取り組まれることを期待してやまない。

大賞

はらしか 原鹿の旧豪農屋敷

所在地	設計者	施工者	概要
斐川町大字原鹿	(株)みずほ設計	(有)佐藤洋行工務店	主屋 木造1階建、新座敷 木造2階建、門座敷 木造1階建
事業主体		(有)高橋工務店	敷地面積 4,380.38㎡
斐川町		玉木建設	建築面積 580.37㎡
		(有)松石産業斐川営業所	延床面積 614.71㎡
		(有)高橋造園	完成年月 平成14年3月



斐川町では、出雲平野の築地松が残る散居景観の地域全体を「田園空間博物館」としてとらえ、この旧豪農屋敷をその中核施設として整備をした。

この出雲地方を代表する歴史的建造物は、主屋を正方形の敷地の中心に南入り南向きに配置し、西側と北側を築地松で囲う当地方の典型的な屋敷構えである。そのつくりには、出雲地方独特の来待石の棟石や、今や貴重となった棧が反対側にある「出雲瓦」の既存再用など随所に出雲的ディテールをみることができる。

今回の修復にあたっては、建物とともに、主庭である「出雲流庭園」や前面道路沿いの堀の復元、築地松を含む約1000㎡にも及ぶ屋敷林の修復整備が行われた。特にこの屋敷林は、出雲地方でも類のない規模のもので、田園空間博物館構想のコア施設にふさわしく、出雲平野の象徴的景観となっている。

このように、斐川町は田園空間博物館構想に基づく景観行政の一環として、廃墟同然に荒廃していた旧豪農屋敷を見事に修復整備をし、密度の高い出雲の原風景を蘇らせた。この貴重な遺産の保全是、斐川町当局の姿勢を含め大賞受賞にふさわしい景観形成として高く評価されるものである。

(矢田清治)

まち・みどり部門 奨励賞

赤ハゲ山の野大根

所在地

隠岐郡知夫村

概要

面積 1 ha

事業主体

知夫村畜産婦人部



知夫里島の自然景観の双壁は、赤壁とこの赤ハゲ山である。

360度のパノラマ眺望が広がる赤ハゲ山の山頂からは、島前一円はもとより、島後や島根半島、遠くには大山や三瓶山をも望むことができる。

この雄大な自然景観に、春、可憐な彩りを添えるのが、淡い赤紫色の野大根の群落である。例年、4月下旬から5月中旬にかけて、山頂部周辺や牧道周辺の広場を埋め尽くす一面の野大根の群落は、ここを訪れる者に、空と海と潮風とが織りなす至福の空間の中で、絶妙なハーモニーを奏でてくれる。

野大根（ハマダイコン）は、大根が野生化して広がったものとされているが、年々その減少が懸念されていた。そこで20年程前から、島の畜産婦人部を中心に、約1 haの放牧地を耕し、前の年に採取しておいた種を播き、野大根の群落を守っているとのこと。また、花の時期には、放牧した牛が花を踏みにじらないように管理をしているとのことであった。

島を訪れた日は、ちょうど秋の「牛市」が行われており、静かな島が久方ぶりに賑わいを見せていた。その市で、ある老婦人から野大根にまつわる話を聞くにつけ、素朴で地味な取組みのなかにも、島の女性たちの自分たちの景観を守ろうとする洒落た心意気を感じることができた。少子高齢化が進むこの島が、野大根の群落とともにいつまでも元気でいて欲しいと願うのは、私一人ではあるまい。
(錦織 勝)

まち・みどり部門 奨励賞

浜田美都線「ハートフルロードしまね」

所在地

那賀郡弥栄村大字野坂～木都賀
主要地方道浜田美都線
(十国トンネル～杵束保育所) 4 km

概要

つつじ	3,104本	さざんか	256本
さつき	100本	むくげ	130本
あじさい	201本	さくら	152本

事業主体

杵束地区コミュニティ活動活性化協議会



浜田市から主要地方道浜田美都線を車で走り十国トンネルを抜けると、途端にのどかな田園風景が目の前にひらけてくる。今回の受賞地区は、この弥栄村の主要な玄関口に位置している。

トンネルの出口から4キロにわたって道の両側につつじが植えられている。丸い形に整えられたものが多く、華やかな花期以外にも目を楽しませてくれる眺めである。また、数は比較的少ないものの、アジサイ、ムクゲ、サザンカも見受けられるが、これは四季を通じて彩りを保とうとする工夫であろう。同様の植栽は周辺の道でもかなりの範囲に及んで見られ、地域の方々の心意気が感じられた。

ここで活動されている「杵束地区コミュニティ活動活性化協議会」は、島根県道路愛護ボランティア制度「ハートフルロードしまね」の認定団体の一つである。この制度は平成12年に始まったが、実際の活動は、昭和62年からであったという。毎年4月から11月にかけて、ゴミ拾いや花木の手入れを繰り返し行っている。

住む人の心配りが感じられる美しい「玄関」は、清々しく心とむむものである。まちの入口景観の大切さが改めて思われる事例である。
(八田典子)

土木施設部門 奨励賞

ぐんぺいだにひがしだにがわ 軍平谷東谷川火山砂防工事

所在地	設計者	概要
大田市三瓶町大字志学	日発技研(株)	高さ H=6.0m□
事業主体	施工者	長さ L=36.0m□
大田土木建築事務所	(有)志学建設	立積 V=827.0m ³ a
		貯砂量 V=1,100m ³ a
		完成年月 平成13年3月



その日は蕭々として風が吹き荒れ、落ち葉が高く舞い上がっていた。三瓶山の南東斜面、道から少し登ったまばらな雑木林とみどり濃い森が続いているちょっとした空き地の正面に、灰色の曇り空の中で、大変明るく暖かささえ感じさせる工作物がひっそりとあった。周辺の黄葉の林のせいかな、しかし、それだけではない。ダムそのものの造りが明るく気分よくさせる。

木材はカラマツだそうだが、その間伐材を横にびっしり隙間なく埋め込むというか、はめ込むというか、横並びに少し短い材を用い、水抜きのための丸い穴が3個均等に造形されている。片方には、窓のように見える黒御影石の銘板が取り付けられており、実にアシンメトリーな面白いアクセントになっている。

一段下った石模様の壁面も実に造形的だ。流れ来るものを溜め流していく平らな面と脇だけがコンクリートで、あとは少し小さめの石をかごめ状の金網がしっかり押さえ、あとは草地の面がその上に添いつつ和らげて補い、一目見ただけで少しユーモラスな形と周辺の風景が悪くない。ピクニックでもしたいと好感を持ってしまった。(山谷裕子)

土木施設部門 奨励賞

匹見川護岸工事

所在地	設計者	概要
益田市神田町	(株)エイトコンサルタント	施工延長 L=3721□ かごマット工 4,8421□
事業主体 益田土木建築事務所	施工者 (株)双葉工業 (有)石川建設	土工 11,6081a 完成年月 平成14年3月



高津川との合流地点に近い、益田市神田町に見られる護岸である。全長は約400メートル。対岸を走る国道488号の改良工事に伴って川幅が狭くなり、流れの勢いが増すことに対処するために行われたものである。

「かごマット工法」によって造られているが、表面は土に覆われ、ごく自然な印象の草地となっている。これは、あらかじめ採取しておいた現地の表土を覆土として使用し、そこから自然発生させたものである。「ごく自然な印象」は、周辺環境と同じ植生が見られることからくるものであろう。また、川に張り出す格好になっている波打ち際の洲の部分も、不定形なままに残されたものであり、自然な水辺空間を保とうとする配慮が感じられた。

休日には、水遊びや釣りを楽しむ人々の姿が見られる場所だと聞く。今後、道路工事も終了して一年二年と月日が経てば、周囲とのいっそうの調和の中に、より人々に親しまれる水辺景観をなすことであろう。新しく造られたものであっても、目立たないことが大きな価値となる場合があることを、分かりやすく示してくれる事例と言えよう。

(八田典子)

公共建築物部門 奨励賞

承久海道キンニャモニャセンター

所在地

隠岐郡海士町大字福井

事業主体

海士町

設計者

(株)アズテック建築設計研究室

施工者

松江土建(株)

概要

木造 地上2階建
敷地面積 15,092.87㎡
建築面積 1,229.39㎡
延床面積 1,562.92㎡
完成年月 平成14年4月



西ノ島からの連絡フェリーが菱浦湾の入口をゆっくりと旋回すると、杉の香が漂う木造の新しい建物が岸壁に沿って緩やかな弧を描いて視界に入ってくる。

船小屋をデザインした待合所では、帰りの船待ちをしている高校生が語らい、湾の少し奥の漁船からは、漁を終えた人々の賑やかな声が響き、海士町の玄関口は実に様々な表情を見せてくれる。

「承久海道」とは、もとより後鳥羽上皇の隠岐配流に因んだものであり、また、初めての人には少し奇異な響きに聞こえるであろう「キンニャモニャ」とは、島民に広く親しまれている民謡に因んだものである。

なだらかな丘陵を背に、波静かな入り江に面したこの建物は、空間を広く取り、木の温もりと美しさを引き出すため、集成構造材を除いては、杉を中心とする隠岐島の木材をふんだんに使っている。このため、海を越えて島を訪れる旅人に、言いようのない温もりを感じさせてくれるとともに、生活のための多くの機能を期待する島の人々にとっても、この施設は利用しやすい身近な空間となっているようだ。

夜の帳が静かに湾内を包むころ、ライトアップされた建物が、水面にやさしい影を映し、高台にあるホテルの窓明かりとともに、抑制の効いた柔らかな光で島の夜を温かく演出している。この施設が、「交流を核としたまちづくり」の拠点として、末永く活用されることを願って止まない。
(錦織 勝)

民間建築物部門 優秀賞

なかむら館

所在地

大田市大森町

施工者

(有)中島工務店

概要

木造 地上2階建
敷地面積 1,436.79㎡
建築面積 143.80㎡
延床面積 279.89㎡
完成年月 平成12年10月

事業主体

中村ブレイス(株)



石見銀山大森町へ入る少し手前に、パッと目に入ってくる真っ白い堅固な元銀行を移築改造した建物がある。山々のみどりに囲まれた狭い場所だ。何だかそぐわない感じをいつも持ちつつ、町へ入ることが多かったが、敷地内に降り立ってみると、まるで様相が違うことに引き込まれた。

正面の入口には、古びた生地のままの木の柱が4本、小さな屋根を支えている。上方の控えめなギリシャ風の彫刻がよい表情を持たせている。

横の方に立ってみる。扉は正面と同じグリーングレイの落ち着いたいい色だ。そして細めの木枠の小さめの細長い窓、その細さが建物全体を優雅な趣にして実に美しく、そして品格を感じる。2階建ての上階は会議室、階下は演奏会等に使うと聞く。夕暮れ、明りが灯り、モーツァルトの四重奏が何か流れ来る様子をイメージする。なんと素敵ではないか。また、その建物のすぐ裏につながるように武家屋敷の長屋門のような長い作業所、オフィス等がある。それが前に立つ風格ある建物と違和感なく調和して心地よい。それに玄関が軒低く、明るい茶色の木枠に素通しのガラスは温かいホッとさせるものがある。さらに、横に連なって社員寮のようなアパートが目立たなく続いている。そして赤い昔のポストだ。

それらが端正な感じをもつ「なかむら館」の近づきにくさを和らげ、一つの格調と静謐さに親しみ感を与えて成立しているような気がする。これを総合的に考えられた人物の見識と美学と情熱とを強く感ぜずにはいられない。

(山谷裕子)

民間建築物部門 奨励賞

出雲湯村温泉元湯公衆浴場

所在地

大原郡木次町大字湯村

事業主体

(有)湯乃上館 (ゆのうえかん)

設計者

(有)山久瀬建築設計事務所

施工者

(有)伊達建設

概要

木造 地上1階建
敷地面積 264.26㎡
建築面積 128.60㎡
延床面積 128.60㎡
完成年月 平成13年12月



この建物は、木次町出雲湯村温泉の斐伊川上流のほとりで、小さな温泉街の集落の中にあり、公衆浴場として改築されたものである。

新しく建てられたとはいえ、屋根には近隣の古い民家に使われていた瓦を譲り受け再利用し、外壁はこのあたりの集落の建物によくある泥壁塗りで造られており、周囲の景観に実によくとけ込んでいる。まるでそこに以前から存在していたかのようだ。

また、二棟の建物に挟まれたガーデンテラスは、誰でも自由に入り出来るオープンスペースになっており、前面の通りにうるおいを与えるばかりでなく、川面を眺めながらの人々の交流の場としての機能も果たしている。この気持ちよさそうな空間はこの建物の特徴づける大きな要素となっている。建物の規模は小さいが、ディテールや色調、全体的な高さ等、既存の家並み景観や通りに対していろいろな配慮がうかがえ、評価できる建物といえる。(小草伸春)

個人住宅部門 優秀賞

後藤家（旧宮田家）

所在地	施工者	概要
能義郡伯太町大字母里	(有)後藤屋	木造 地上2階建
事業主体		敷地面積 951.32㎡
後藤喜郎		建築面積 172.56㎡
		延床面積 228㎡
		完成年月 平成14年4月



近世広瀬藩の藩庁のあった広瀬の町並みに建っていた町屋風の大きな家屋が解体されると聞き、同じように母里藩の藩庁のあった母里に住んでいる後藤さんは、それを譲り受け、そっくり移築した。

移築した建物は、藩庁のあった近くの閑静な通りにあり、周囲の家屋とびったり調和し、以前にましてあたりに近世的雰囲気を漂わせている。戸、腰板、棧、格子、瓦、棟石など、使用できる材料はすべて使用している。そこには、伝統的な技法や材料を後世に残そうとする気持ちがよく表れている。

玄関の左右にはめ込まれた土壁は、長い年月の間に書き込まれた落書きのある壁を、そのまま移したもので、表面をアクリル板で保護している。

後藤さんのただならぬこだわりに深い感動を覚えた。(藤岡大拙)

工作物・その他部門 優秀賞

くまがたに 熊ヶ谷棚田

所在地

那賀郡旭町大字都川

事業主体

藤澤 守

概要

面積 0.9ha

棚田の枚数 約25枚



山間の谷川に沿う熊ヶ谷棚田は、周りを杉木立で囲まれ、小ぢんまりとしたたたずまいを見せているが、下方から見上げたとき、その整然とした石積みの連なりに圧倒される。高いもので4メートル近くはある石垣が幾重にも重なり、その様は城郭を彷彿させる程のスケール感を呈する。規則的に整然と配されたこの石積みの棚田は、各地にある多くの棚田の中でも、その緻密さと美しさが際立っている。築造された当時のままの造形が現在まで変わらず、永きにわたる農家のたゆまぬ維持管理には頭が下がる思いである。この維持管理により、棚田はまた、農業生産の他に国土保全や環境保全といった多面的機能を担っている。

自然に対して対峙しない形で営まれてきた山間地での農業の姿を見るとき、この棚田は懐かしくもあり、またこれからの社会に必要なとされる環境を考えるヒントを与えてくれる。それでも、耕作放棄地などが見受けられるようになると、この素晴らしい地域資源である棚田の保全が心配である。

今後の棚田の保全に対して、地域ぐるみでの知恵を出して欲しい。そして、地域が元気になって欲しい。
(藤居良夫)

第10回 しまね景観賞

大賞

- ① 原鹿の旧豪農屋敷
事業主体／斐川町

まち・みどり部門 奨励賞

- ② 赤ハゲ山の野大根
事業主体／知夫村畜産婦人部

まち・みどり部門 奨励賞

- ③ 浜田美都線「ハートフルロードしまね」
事業主体／杵束地区コミュニティ活動活性化協議会

土木施設部門 奨励賞

- ④ 軍平谷東谷川火山砂防工事
事業主体／大田土木建築事務所

土木施設部門 奨励賞

- ⑤ 匹見川護岸工事
事業主体／益田土木建築事務所

公共建築物部門 奨励賞

- ⑥ 承久海道キンニャモニャセンター
事業主体／海士町

民間建築物部門 優秀賞

- ⑦ なかむら館
事業主体／中村ブレイス(株)

民間建築物部門 奨励賞

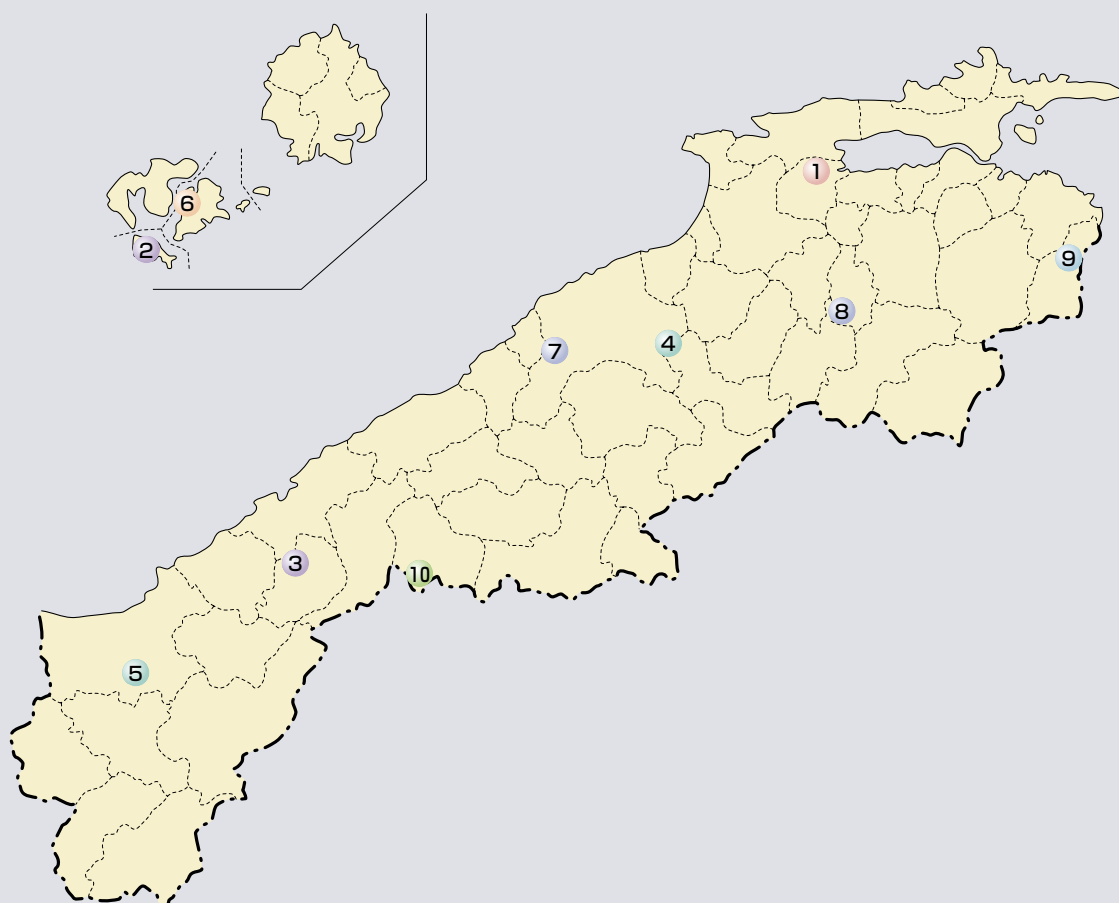
- ⑧ 出雲湯村温泉元湯公衆浴場
事業主体／(有)湯乃上館

個人住宅部門 優秀賞

- ⑨ 後藤家(旧宮田家)
事業主体／後藤喜郎

工作物・その他部門 優秀賞

- ⑩ 熊ヶ谷棚田
事業主体／藤澤 守



平成14年度

第10回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

審査委員

- 小草 伸春 島根県建築士事務所協会会長
- 田村 美幸 公共の色彩を考える会委員長
- 八田 典子 島根県立大学助教授
- 藤居 良夫 信州大学工学部助教授
- 藤岡 大拙 島根女子短期大学学長
- 布野 修司 京都大学大学院工学研究科助教授
- 矢田 清治 島根県建築士会会長
- 山谷 裕子 画家
- 錦織 勝 島根県環境生活部長

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

審査経過

- 募集期間
平成14年7月1日(月)～9月2日(月)
- 募集結果
応募総数……119件
応募物件数…113件
- 第1回審査委員会(平成14年5月9日)
対象物、募集方法、審査日程、審査基準等の検討。
- 第1次審査(平成14年9月20日～10月2日)
応募書類、写真を基に第2次審査の対象となる36物件を選出。
- 第2回審査委員会(平成14年11月11日・12日)
選出された36物件・活動について現地審査及び最終審査を行い、10物件を選定。
- 表彰式(平成15年2月7日)
受賞物件の事業主体、設計者、施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈。

第10回 しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

応募部門	物件名称	所在地
まち・みどり部門	松江警察署前の遊歩道 ※赤ハゲ山の野大根 松江駅通り周辺整備 平田市街地の町並み（木綿街道） 鱒淵寺境内林 ※浜田美都線「ハートフルロードしまね」 魚瀬集落 荒神谷2000年ハス	松江市袖師町 隠岐郡知夫村 松江市寺町 平田市平田中町、片原町ほか 平田市別所 那賀郡弥栄村大字野坂～木都賀 松江市魚瀬町 簸川郡斐川町大字神庭西谷
土木施設部門	ソフトビジネスパーク島根 宍道湖北通り 堀川新橋 宍道湖大橋・湖畔道路整備 宍道湖斐川なぎさ公園 ※軍平谷東谷川火山砂防工事 ※匹見川護岸工事	松江市北陵町 松江市末次町 松江市北堀町～内中原町 松江市灘町～千鳥町 簸川郡斐川町沖州 大田市三瓶町大字志学 益田市神田町
公共建築物部門	安来市立南小学校 ※原鹿の旧豪農屋敷 ※承久海道キンニャモニャセンター 西ノ島新由良団地 東出雲おちらと村	安来市清瀬町 簸川郡斐川町大字原鹿 隠岐郡海士町大字福井 隠岐郡西ノ島町大字浦郷 八束郡東出雲町上意東
民間建築物部門	寺町プラザ 一畑電鉄松江しんじ湖温泉駅 ※なかむら館 千鳥ホームパーティーズ（事務所） ※出雲湯村温泉元湯公衆浴場 美保関郵便局	松江市寺町 松江市中原町 大田市大森町 松江市西川津町市成灘 大原郡木次町大字湯村 八束郡美保関町大字美保関
個人住宅部門	※後藤家（旧宮田家） 沖州の家 市村邸 大田市にある家屋 梅津邸 O邸	能義郡伯太町母里 簸川郡斐川町沖州 大田市静間町 大田市長久町 松江市秋鹿町字上清水 八束郡八雲村大字西岩坂
工作物・その他部門	津和野町コミュニティゾーン 歩行者案内板 ※熊ヶ谷棚田 うぐいす苑前 げんき地藏 風車	鹿足郡津和野町後田～中座 那賀郡旭町大字都川 松江市西法吉町 松江市北陵町

受付順 ※は受賞作品

■表紙のご紹介

旅みやげ第三集より

「石見 有福温泉」 大正13(1924)年 多色木版・紙 (島根県立美術館収蔵)

江津市にある有福温泉の風景である。急斜面に立ち並ぶ柿色の石州瓦の宿、狭い路地、有福温泉は、今もこの画面の面影を残している。急な石段の先にある宿の灯りが、この絵を見る者をほっとさせる。巴水は、有福らしい情緒を表現するために、宿に灯りがともりはじめた夕闇の時刻を選んで描いている。それ故、ひっそりと、しかしどこか暖かみのある、昔からの湯治場のたたずまいが、よりいっそう印象的になっている。石見有数の温泉を描いた秀作である。

川瀬 巴水 (かわせ はずい) 明治16(1883)年～昭和32(1957)年

東京に生まれる。画家を志し、洋画と日本画を学ぶが、大正7年に伊東深水の木版画《近江八景》を見て版画への関心をよせ、1920年《旅みやげ第一集》を出版し、風景版画家としての地位を確立する。浮世絵版画の伝統を生かしつつ、洋風を加味した風景版画にその特徴がある。全国各地を旅しながら数多くの風景版画を発表し、海外でも高い評価を得ている。

